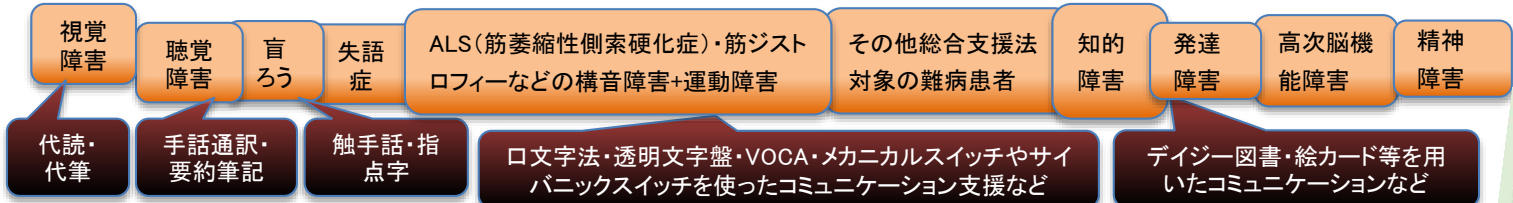


障害保健福祉政策における情報アクセシビリティ向上策の推進に向けた効果的な方法に関する研究

橘とも子、水島洋、佐藤洋子

多様なコミュニケーション障害者への支援方法、および障害者の主体的な健康づくり支援や施策評価に必要な「予後情報システム」を構築し、障害保健福祉における情報アクセシビリティ向上を目指しています。

「意思疎通が困難な者に対する情報保障の効果的な支援手法に関する研究」



さまざまな意思疎通困難をかかえる人びとが、地域で安心・安全に暮らすために必要な、情報アクセシビリティ向上のために、公開シンポジウムを企画・開催し、多様なコミュニケーション障害への支援方法を探るとともに、広く国民への普及を図る。さらに、意思疎通支援のガイドライン作成に資する、障害種別ごとに求められる支援手法のまとめを、その妥当性や効果を示す資料とともに作成する。

「外傷医療データベースを活用した予後情報システム構築に向けた調査研究」

人口の高齢化や医療水準の向上に伴って、骨折や転倒の防止といった外傷の「一次予防」のみならず、後天性障害への連続した医療福祉ケアの効率的で効果的な提供、といった外傷の「三次予防」の充実が求められている。障害者の主体的な健康づくり活動を支援するとともに、質の高い施策を推進するには、介入評価や施策評価を行うための、疫学エビデンス等の集積・活用による環境づくりとしての、「情報アクセシビリティ(情報の利用しやすさ)の向上」が必要である。そのためのアプローチの1つとして、「外傷予後情報システム」を構築するためのモデル情報システムについて、検討・調査・分析を行う。

- 1) 外傷医療データベースを活用した予後情報システムの構築に係る研究
- 2) 「日本語版WHODAS2.0」を用いた、予後関連要因の後向き疫学コホート研究

